

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
専門学校富士リハビリテーション大学校	平成17年3月25日	学校長 内田成男	〒417-0061 静岡県富士市伝法2527-1 (電話) 0545-55-3888																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人森島学園	平成13年3月27日	理事長 森島康之	〒434-0038 静岡県浜松市浜北区貴布祢232-3 (電話) 053-585-1333																								
分野	認定課程名	認定学科名		専門士	高度専門士																						
医療	医療専門課程	理学療法学科		平成19年文部科学省認定	申請中 (令和2年4月より4年制に変更)																						
学科の目的	豊かな人間性と発想力を備えたリハビリテーションのプロフェッショナルを育成。地域のリハビリテーション医療を支える理学療法士の養成。																										
認定年月日	平成27年2月25日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
4年	昼間	3,585	1,920	585	1,080	0	0																				
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
160人	143人	0人	10人	30人	27人																						
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して成績評価を行う。 成績はA,B,C,Fの4段階で、C(60点以上)以上が合格となる。 なお、授業出席時数が所定の授業時間の2/3(臨床実習においては3/4)に満たない場合は成績評価を受けることはできない。																							
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月25日～1月7日 ■学年末:3月21日～3月31日		卒業・進級条件	進級においては、当該学年で開設している科目を全て合格すること。 卒業においては、在籍学科で開設している全ての科目を合格すること。 上記の基準をもって判定会議で協議し、学校長が認定を行う。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 学業不振、学校の規則に適應できないなどが長期欠席の原因になりやすい。個別の学習指導や面談など行い、原因の解消に努める。保護者への連絡も行い、家庭での状況を把握しつつ対応する。臨床心理士による学生相談の設置。		課外活動	■課外活動の種類 新入生宿泊セミナー 市民マラソンのコンディショニングブース協力、ボランティア活動 等 ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(令和元年度卒業生) 総合病院・リハ病院・クリニック・介護老人保健施設等 ■就職指導内容 求人情報提供・就職説明会開催・履歴書作成指導・面接指導等 ■卒業生数 44人 ■就職希望者数 41人 ■就職者数 41人 ■就職率 100% ■卒業生に占める就職者の割合 : 93.2% ■その他 ・進学者数: 0人 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和元年度卒業生に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>理学療法士国家試験受験資格</td> <td>②</td> <td>44人</td> <td>41人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	理学療法士国家試験受験資格	②	44人	41人												
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
理学療法士国家試験受験資格	②	44人	41人																								
中途退学の現状	■中途退学者 20名 平成31年4月1日時点において、在学者162名(平成31年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者144名(令和2年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 学業不振、進路変更、学生生活への不適合等 ■中退防止・中退者支援のための取組 個別の学習指導、面談(個人・保護者)、カウンセリング、補習、学費相談(提携教育ローン、分納相談等)初年次教育		■中退率 12%																								
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 ・入学金優待制度:本校卒業生、在校生の家族(配偶者、兄弟姉妹など)が入学する際に優遇される制度 ・遠隔地サポート制度:本校が指定する遠隔地に在住、または遠方のため下宿を伴う学生を対象に月額3千円を補助。対象者はJR又は東名バスの公共交通機関を利用する者に限る。 ・作業療法学科遠隔地サポート制度:指定校限定のサポート制度。遠隔地に在住し、作業療法学科を指定校推薦で出願する必要があります。推薦基準があります。(月額2万円)(2020年度入学者まで対象) ・スカラシップ・チャレンジ:出願時にスカラシップ・チャレンジで受験をし、学力・人物ともに優秀な学生にスカラシップ(特別給付金)を給付する制度。 ・成績優秀者スカラシップ:1年次、2年次、または3年次の学業成績が優秀、かつ人物に優れた学生を進級時に表彰し副賞としてスカラシップ(特別給付金)を給付。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 ※給付対象の場合、前年度の給付実績者数について任意記載																										

第三者による 学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 有</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載 (評価団体、受審年月、評価結果又は評価結果を掲載したホームページURL) URL: <a href="https://www.morishima.ac.jp/fuji/introduction/estimation/">https://www.morishima.ac.jp/fuji/introduction/estimation/</a></p>
当該学科の ホームページ URL	<p>URL: <a href="https://www.morishima.ac.jp/fuji/physiotherapy/">https://www.morishima.ac.jp/fuji/physiotherapy/</a></p>

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の占める割合をいいます。

②「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

理学療法士養成は、実際の患者さんに検査・治療を行う授業(臨床実習)が不可欠なため、企業等(臨床実習施設である病院等)との連携が必要となる。教育課程の編成においては、主に臨床実習の授業内容について、企業等の意見を取り入れることを基本方針とし、教育課程編成委員会に臨床実習施設から委員を招聘している。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

理学療法分野に関する企業、団体等との連携体制を確保し、授業科目の開設、その他の教育課程の編成を行うために、「教育課程編成委員会」を設置する。教育課程編成委員会構成員は学校法人森島学園と企業関係者等の外部役員から成るものとする。互いの意見を十分に活かし、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けている。年2回の会議を開催し、学校側から議題を提案し、企業等から意見・要請を受け、それを生かした実践的かつ専門的な職業教育が主体的に実施されるよう取り組んでいる。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
和泉 謙二	公益社団法人 静岡県理学療法士協会 会長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①
山中 良二	医療法人社団 紫苑会 富士いきいき病院 リハビリテーション部 部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
内田 成男	専門学校富士リハビリテーション大学校 学校長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
宮下 正好	専門学校富士リハビリテーション大学校 教務部長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
市村 真樹	専門学校富士リハビリテーション大学校 学生担当課長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
植田 英則	専門学校富士リハビリテーション大学校 理学療法学科長	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	
赤岩 龍士	専門学校富士リハビリテーション大学校 理学療法学科主任	令和2年4月1日～ 令和4年3月31日(2年)	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和2年6月17日 17:00～18:00

第2回 令和2年10月28日 17:00～18:00(予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

1. 新型コロナウイルス感染拡大を受け学校側の対応

①臨床実習の学内実習と学外実習の取り組み。臨床実習を学内実習で行う場合、どのように満たしていくか。

②リモート受講の取り組み。通学がない、気軽に受講できる面というメリットがある。一方、学生同士のつながりを持ってない、実技授業は難しいなど課題がある。③ICT授業、リモートの活用について今年度の経験を基に進めていく。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

実際の患者さんに検査・測定・治療を実施できることを目的とするため、全ての授業を校外で行うことを基本方針とする。校外での実習となるため、各実習地に指導教員(臨床実習指導者)の選出を依頼し、その臨床実習指導者が学生の指導を行う。臨床実習指導者および実習地は、厚生労働省の基準を満たしていることを選定の条件としている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1～3年次各学年で企業等と連携して校外実習となる臨床実習を実施。毎年3月に臨床実習指導者会議を開催し、臨床実習の具体的進行方法を確認。学生指導法について臨床実習指導者講習会を県内リハビリ養成校と協力して開催し、臨床実習施設に参加を促し質の向上に努めている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。		
科目名	科目概要	連携企業等
臨床実習Ⅰ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を見学、体験する。実際に病院や施設などの理学療法士が働いている現場で学ぶことにより、職業に必要な知識・態度を実感し、身につけることを目的とする。	水病院、湖山リハビリテーション病院、聖隷富士病院、池田病院、共立蒲原総合病院 ほか36施設
臨床実習Ⅱ	臨床実習指導者のもと、理学療法業務を見学、体験する。実際に病院や施設などの理学療法士が働いている現場で学ぶことにより、職業に必要な知識・態度を実感し、身につけることを目的とする。	令和3年実施予定
臨床実習Ⅲ	臨床実習指導者のもと、検査・測定を中心とした理学療法の基本技能の実践を行う。基本的な技術の習得と、患者さんへの接し方を習得するのが目的となる。	令和4年実施予定
臨床実習Ⅳ	臨床実習Ⅲの内容に加え、基本的な治療補助の体験まで行う。技術の習得とともに、患者さんの問題点の分析など、判断能力の習得も目的とし、理学療法士としての総合的な能力を構築していく。	令和4年実施予定
臨床実習Ⅴ	臨床実習Ⅳの内容に加え、基本的な治療の実践まで行う。患者さんの問題点の分析・治療計画の立案など、判断能力の習得も目的とし、理学療法士としての総合的な能力を構築していく。	令和5年実施予定
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 教員としての教育力向上、理学療法士としての治療技術向上、この2点を目的として研修活動を行うことを基本方針とする。 教育力向上については、全国リハビリテーション学校協会主催の教育研究大会への参加を、理学療法士としての技術向上については、臨床研修(週1回)実施や日本理学療法士協会主催の学術大会等への参加を奨励している。また、新任教員にはPT・OT・ST養成施設教員等長期講習会の受講を義務付け、全教員が基本的な教育スキルを習得できるようにしている。これら研修活動は、学内で規程を設けそれに則って学科長が年間の計画を策定し、実施している。 その他の活動として、学内研修・法人内姉妹校との合同研修を行っている。(新型コロナの影響により今年度は中止。)いずれもFD活動の一環であり、FD委員会が企画して実施している。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名「臨床研修」(連携企業等:山中整形外科、富士整形外科病院、介護老人保健施設ききょうの郷、清水富士山病院、かとう整形外科医院、喜山整形外科ハブクリニック、鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院) 期間:平成31年4月1日(月)～令和2年3月31日(火) 週1回 対象:病院・施設の患者・利用者 内容:患者、利用者に対する理学療法業務 研修名「第54回日本理学療法学術研修大会」(連携企業等:公益社団法人日本理学療法士協会) 期間:令和元年5月25日(土)～令和元年5月26日(日) 対象:理学療法士 内容:社会に認められる理学療法士		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名「静岡県臨床実習指導者講習会」(連携企業等:静岡県理学療法士会) 期間:令和2年2月22, 23日(土日) 対象:理学療法士資格取得より4年経過したもの 内容:臨床実習の到達目標と修了基準、診療参加型臨床実習における学生評価等		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名「臨床研修」(連携企業等:山中整形外科、富士整形外科病院、介護老人保健施設ききょうの郷、清水富士山病院、かとう整形外科医院、喜山整形外科ハブクリニック、鎌倉リハビリテーション聖テレジア病院) 期間:令和2年4月1日(水)～令和3年3月31日(水) 対象:学科教員 内容:患者、利用者に対する理学療法業務 研修名「第55回日本理学療法学術研修大会」(連携企業等:公益社団法人日本理学療法士協会) 期間:令和2年5月23日(土)～令和2年5月24日(日) 対象:理学療法士 内容:100年ライフに必要な「はたらく」を構築する		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名「PT・OT・ST養成施設教員等長期講習会」(厚生労働省)(連携企業等: ) 期間:令和2年8月18日(火)～9月8日(火) 対象:養成校教員および教育に関わる臨床実習指導者 内容:教育評価学、教育方法論、教育原理、教育心理学等		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ・専修学校における学校評価ガイドライン及び本校学則第4条に基づき、教育、組織及び運営並びに施設および設備等の状況を明確化する。
- ・本校自己点検評価の結果を基本として、学校関係者評価委員会の中で学校評価を実施する。
- ・本校の現状について、外部へ適切に公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目的・育成人財像等
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献
(11) 国際交流	なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

- ・学修成果について：卒業生の社会貢献の状況の把握、公表
- ・学生の募集と受け入れについて：PTあるいはOTに特化したオープンキャンパスの企画
- ・法令等の遵守について：ハラスメントに関する規程の作成

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和2年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
廣瀬真人	医療法人社団英志会 富士整形外科病院	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	企業等委員
森雄司	独立行政法人国立病院機構 静岡医療センター/専門学校富士リハビリテーション大学校 同窓会 会長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	卒業生
澤田和也	医療法人財団百葉の会 介護老人保健施設 ききょうの郷	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	企業等委員
吉田和代	専門学校富士リハビリテーション大学校 後援会 副会長	令和2年4月1日～ 令和3年3月31日	後援会

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL:<https://www.morishima.ac.jp/fuji/>

公表時期: 令和2年5月25日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

情報提供はホームページ、スクールカイトを利用して公表。学校関係者評価委員には学校自己評価報告書等を資料として配布

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校紹介
(2) 各学科等の教育	学科紹介
(3) 教職員	教員紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	キャンパスライフ・課外活動
(6) 学生の生活支援	学生サポート制度
(7) 学生納付金・修学支援	学費・入学金サポート・優待制度
(8) 学校の財務	情報公開(財務状況)
(9) 学校評価	情報公開(学校評価報告書)
(10) 国際連携の状況	なし
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ )

URL:<https://www.morishima.ac.jp/fuji/>

授業科目等の概要

(医療専門課程理学療法学科)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			PC演習	基本的なパソコン操作を理解し、使用することを学ぶ。	1・前	30	1	○	△		○		○		
2	○			情報統計科学	生物科学の理論の根拠としての統計学の基礎を学ぶ	1・後	30	1	○			○		○		
3	○			心理学	人間の行動や基礎にある原理を学び、こころの理解に必要な基本的知識を身につける。	1・前	30	2	○			○		○		
4	○			科学哲学	科学哲学の認識を経て、リハビリテーションに関わる者として、科学的、哲学的に自問していく素養を身につける。	1・前	30	2	○			○			○	
5	○			生活社会科学	さまざまな世代の人の生活を理解するために、家庭内での生活や社会における生活を、それぞれの世代の社会規範や背景、人生観や価値観などを学ぶ。	1・前	30	1	○			○		○		
6	○			英語 I	基本的英会話と、医療現場で使用される可能性のある簡単な英会話および必要な単語を学んでいく。	1・前	30	2	○			○			○	
7		○		英語 A	カルテに書かれている英語を理解すること、英語医療論文を読解する手段を知ること、医療現場での簡単なコミュニケーションを図れるように学ぶ。	1・後	15	1	○			○			○	
8		○		英語 B	カルテに書かれている英語を理解すること、英語医療論文を読解する手段を知ること、医療現場での簡単なコミュニケーションを図れるように学ぶ。	1・後	15	1	○			○			○	
9	○			コミュニケーション論	コミュニケーションに必要な知識について学び、様々な場面でのコミュニケーションを学ぶ。	1・前	30	2	○	△		○		○	○	
10	○			ボランティア活動論	ボランティアの定義を理解し、作業療法士として参加できる活動について学ぶ。	1・前	15	1	○			○		○		
11	○			スポーツ科学	スポーツにおける動作の特徴、外傷障害について理解する。 障がい者スポーツについて理解を深める。	2・前	30	2	○			○		○		
12	○			解剖学 I	人体（神経系・感覚器系・呼吸器系・循環器系・消化器系）の構造を学ぶ。	1・前	30	1	○			○			○	

13	○		解剖学Ⅱ	人体（運動器系）の構造を理解する。	1・後	30	1	○			○						
14	○		解剖学実習Ⅰ	筋・骨格系の構造と機能を立体的に把握する。	1・前	30	1		○		○						
15	○		解剖学実習Ⅱ	骨格系、神経系、一部の臓器の構造と機能を立体的に把握する。	1・後	30	1		○		○						
16	○		生理学Ⅰ	人体の健全状態における構造と機能（動物機能系）について基本的な事実と法則を学ぶ。	1・前	30	1	○			○						
17	○		生理学Ⅱ	人体の健全状態における構造と機能（植物機能系）について基本的な事実と法則を学ぶ。	1・後	30	1	○			○						
18	○		運動学Ⅰ	理学療法・作業療法の基礎知識として身体運動のメカニズムについて理解する。人間の運動・動作・行為について運動学的思考ができるようにする。	1・後	30	1	○			○						
19	○		運動学Ⅱ	人間の運動・動作・行為について運動学的思考を学ぶ。	2・前	30	1	○			○						
20	○		身体運動学	各関節の制御機構と筋機能を学ぶ	3・前	15	1		○		○						
21	○		臨床運動学	運動学的分析や運動力学的分析について学ぶ	4・後	30	1	○			○						
22	○		運動生理学実習	身体の状態を運動生理学的に理解できる。	1・後	30	1		○		○						
23	○		人間発達学	人間の生涯にわたる変化を心の発達を中心に学ぶ。	1・後	30	1	○			○						
24	○		人体構造学	理学療法・作業療法を行うのに必要な解剖学・運動学・生理学の知識を習得する。	4・後	30	1	○			○						
25	○		病理学	病理形態学の基本となる問題点を学ぶ。	1・後	30	2	○			○						
26	○		臨床心理学	臨床心理学の概要を理解し、臨床心理学的視点を学ぶ。	1・後	30	1	○			○						
27	○		内科学Ⅰ	血液・造血器疾患、代謝性疾患、内分泌系疾患、腎・泌尿器系疾患における症候学、診断、治療を学ぶ。	2・前	30	1	○			○						

28	○		内科学Ⅱ	消化器 および 呼吸・循環器 疾患 における症候学、診断、治療を学ぶ。	2・後	30	1	○			○			○
29	○		神経内科学	神経症候および主な神経疾患の病態と診断、治療について学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○
30	○		整形外科Ⅰ	整形外科分野の中の炎症性疾患、代謝・内分泌疾患の概論、検査、治療法を学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○
31	○		整形外科Ⅱ	整形外科分野の中の骨折、関節の外傷、末梢神経損傷、靭帯損傷の概論、検査、治療法を学ぶ。	2・後	30	1	○			○			○
32	○		小児科学	理学療法および作業療法の臨床に必要な小児疾患、主に新生児・未熟児疾患、先天異常、神経疾患を学ぶ。	2・前	15	1	○			○			○
33	○		精神医学Ⅰ	精神医学の中の気分障害、神経症性障害における症候学、診断、治療学ぶ。	1・後	30	1	○			○			○
34	○		精神医学Ⅱ	精神医学の中の脳器質性精神障害、統合失調症における症候学、診断、治療を学ぶ。	2・前	30	1	○			○			○
35	○		脳神経外科学	脳外科学の脳腫瘍、頭部外傷、脳血管障害を中心に症候学、診断、治療を学ぶ。	2・後	30	1	○			○			○
36	○		薬理・栄養と健康	リハ技師として必要な薬理・栄養学を学ぶ。健康維持の基礎的な考え方を学ぶ。	2・後	15	1	○			○			○
37	○		リハビリテーションと障害	理学療法・作業療法の実施に必要な臨床医学等を学ぶ。	4・後	30	1	○			○			○
38	○		リハビリテーション概論	現代の医療・福祉分野におけるリハビリテーションを理解する	1・前	30	2	○			○			○
39	○		チーム医療論	医療現場の様々な職種の役割を理解し、チーム医療を学ぶ。	1・前	15	1	○			○			○ ○
40	○		社会福祉概論	障害者の人権や生活支援のための社会保障制度や社会福祉について学ぶ	1・前	15	1	○			○			○
41	○		関連法規	障害者の生活を支援する制度を理解し、社会的リハビリテーションを学ぶ。	4・後	15	1	○			○			○
42	○		基礎理学療法Ⅰ	理学療法の基礎科学（運動器）を理解する。	1・前	30	1	○			○			○

43	○		基礎理学療法学Ⅱ	理学療法の基礎科学（神経系）を理解する。	1・後	30	1	○			○		○		
44	○		基礎理学療法学実習Ⅰ	理学療法の基本技能の筋力練習、バイタルサインの測定を習得する。	1・前	30	1		○		○		○		
45	○		基礎理学療法学実習Ⅱ	理学療法の基本技能の触診・介助法を習得する。	1・後	30	1		○		○		○		
46	○		理学療法研究	研究の基本的な手法を学ぶ。	4・前	30	1	○			○		○		
47	○		理学療法研究演習	研究の基本的な手法を踏まえ、研究を実践する。	4・後	45	2	○			○		○		
48	○		理学療法管理学	理学療法士としての職業倫理、マネジメントを学ぶ。	4・後	30	2	○			○		○		
49	○		理学療法教育学	理学療法士における教育技術を養う。	4・後	15	1	○			○		○		
50	○		機能診断学	理学療法場面で行う検査・測定を総論的に学ぶ。	1・後	30	1	○			○		○		
51	○		運動機能評価学	運動機能（関節可動域、筋力）の検査・測定方法を理解する。	2・前	30	1	○			○		○		
52	○		運動機能評価学実習	運動機能（関節可動域、筋力）の検査・測定技能を習得する。	2・前	60	2		○		○		○		
53	○		神経機能評価学	神経症候と神経学的所見の取り方を学ぶ。	2・前	30	1	○			○		○		
54	○		神経機能評価学実習	神経症候に対する検査・測定技能を習得する。	2・前	30	1		○		○		○		
55	○		画像評価学	画像（X線・MRI・エコー等）評価を学ぶ。	4・後	15	1	○			○		○		
56	○		動作分析学実習	基本動作（起き上がり、歩行等）の観察、表現方法を実習を通して学ぶ。	2・後	45	1		○		○		○		
57	○		理学療法評価学	症例の記録方法について学ぶ。	2・後	15	1	○			○		○		

58	○		理学療法評価学実習	仮想症例に対して、検査を選択・判断し実践する。	2・後	30	1		○		○		○					
59	○		総合理学療法評価学	理学療法士が実施する検査・測定方法を学ぶ。	4・後	30	1	○			○		○					
60	○		運動療法学	関節可動域運動、筋力増強運動の理論・方法を学ぶ。	2・前	30	1	○			○		○					
61	○		運動療法学実習	関節可動域運動、筋力増強運動の基本的な技能を習得する。	2・前	30	1		○		○		○					
62	○		予防理学療法学	障がいを引き起こす恐れのある疾病や老年症候群の発症予防と再発予防を学ぶ。	4・後	15	1	○			○		○					
63	○		中枢神経疾患理学療法学Ⅰ	脳血管障害片麻痺に対する理学療法を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○					
64	○		中枢神経疾患理学療法学Ⅱ	脳血管障害片麻痺に対する理学療法を学ぶ。	3・前	30	1	○			○		○					
65	○		中枢神経疾患理学療法学実習Ⅰ	脳血管障害片麻痺に対する検査・測定法を学ぶ。	2・後	30	1		○		○		○					
66	○		中枢神経疾患理学療法学実習Ⅱ	脳血管障害片麻痺に対する理学療法を学ぶ。	3・前	30	1		○		○		○					
67	○		神経・筋疾患理学療法学Ⅰ	脊髄損傷に対する理学療法を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○					
68	○		神経・筋疾患理学療法学Ⅱ	神経難病、筋疾患に対する理学療法を学ぶ。	3・前	30	1	○			○		○					
69	○		運動器疾患理学療法学Ⅰ	骨折、変形性関節症、靭帯損傷、熱傷、関節リウマチの理学療法を学ぶ。	2・後	30	1	○			○		○					
70	○		運動器疾患理学療法学Ⅱ	骨折、変形性関節症、靭帯損傷、熱傷、関節リウマチの理学療法を学ぶ。	3・前	30	1	○			○		○					
71	○		運動器疾患理学療法学実習Ⅰ	骨折、変形性関節症に対する基本的な治療技能を習得する。	2・後	30	1		○		○		○					
72	○		運動器疾患理学療法学実習Ⅱ	軟部組織損傷に対する基本的な治療技能を習得する。	3・前	30	1		○		○		○					

73	○		スポーツ理学療法学	スポーツ外傷に対する基本的な治療技能を習得する。	2・後	30	1	○				○	○				
74	○		小児理学療法学	正常な知的身体的発達と発達障害に対する理学療法を学ぶ。	3・後	30	1	○				○	○				
75	○		内部疾患理学療法学	呼吸器疾患、心疾患、糖尿病に対する理学療法を学ぶ。	3・後	30	1	○				○	○				
76	○		内部疾患理学療法学実習	呼吸器疾患、心疾患、糖尿病に対する基本的な検査・治療技術を学ぶ。	3・後	30	1		○			○	○				
77	○		日常生活活動学	日常生活活動の構造と評価方法を学ぶ。	2・前	30	1	○				○	○				
78	○		日常生活活動学実習	基本動作の構造を理解し、基本的な介助技能を習得する。	2・前	30	1		○			○	○				
79	○		物理療法学	温熱療法、電気刺激療法、牽引療法、寒冷療法の理論を学ぶ。	3・前	30	1	○				○	○				
80	○		物理療法学実習	温熱療法、電気刺激療法、牽引療法、寒冷療法の方法を習得する。	3・前	30	1		○			○	○				
81	○		装具学	下肢装具、上肢装具、体幹装具の構造と適応疾患を学ぶ。	3・前	30	1	○				○	○				
82	○		義肢学	義足（下腿、大腿）の構造と特徴を学ぶ。	3・後	30	1	○				○	○				
83	○		症例検討Ⅰ	整形外科疾患、中枢神経疾患に対するケーススタディの方法を学ぶ。	3・後	15	1	○				○	○				
84	○		症例検討Ⅱ	整形外科疾患、中枢神経疾患をパワーポイントを利用して発表する方法を学ぶ。	4・前	15	1	○				○	○				
85	○		臨床理学療法学	各種疾患に対し、検査・測定・治療法方法を選択、判断する能力を養成する。	4・後	60	2	○				○	○				
86	○		理学療法技術論	応用的な理学療法技術（徒手療法 など）を体験し、理解する。	4・後	30	1		○			○	○	○	○		
87	○		理学療法セミナー	最新の理学療法のトピックを学ぶ。	4・後	15	1	○				○	○				

88	○		地域リハビリテーション学	地域社会における理学療法士の役割を理解する。	2・後	30	1	○			○		○		
89	○		生活環境論Ⅰ	障害者に対応した住宅改修に必要な関連法規を学ぶ。	3・前	15	1	○			○		○		
90	○		生活環境論Ⅱ	障害者に対応した住宅改修を学ぶ。	4・前	15	1	○			○		○		
91	○		臨床実習Ⅰ	医療従事者として適切な行動を体験し、理解する。関連企業（実習施設）で5日間行う。	1・後	45	1				○		○		○ ○
92	○		臨床実習Ⅱ	医療従事者として適切な行動を体験し、理解する。関連企業（通所・訪問等実習施設）で5日間行う。	2・後	45	1				○		○		○ ○
93	○		臨床実習Ⅲ	基本的な検査・測定・介助技能を習得する。関連企業（実習施設）で17日間行う。	3・前	180	4				○	○	○	○	○ ○
94	○		臨床実習Ⅳ	基本的な治療技術を習得する。関連企業（実習施設）で40日間行う。	3・後	405	9				○	○	○	○	○ ○
95	○		臨床実習Ⅴ	基本的な治療技術を習得する。関連企業（実習施設）で40日間行う。	4・前	405	9				○	○	○	○	○ ○
合計						95科目		3,585単位時間(				124単位)			

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
科目をすべて合格していること。履修方法：学年ごとに開設している必修科目・選	1 学年の学期区分	2期	
	1 学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。